

## 私たちは戦争をしません

世田谷区成城九丁目在住 元主婦

私は若い日々を戦争の中に過ごしました。九十才になった今も、戦争から一続きの日々を生きております。戦争の記憶は私の人生の大きな要素であり、人生の意味もそこから生じました。私が現実に見た「戦争」は人間の地獄でありました。取り返しの付かぬ悲惨な地獄、殺し合い破壊しあう地獄でありました。戦争に青年らを有無を言わず殺し、業火の中に無数の民間人を死なせた敗戦焦土の風景は昨日の事です。三年八か月にわたる戦争で日本人は三百十万人死にました。

生還なき死のみの特攻作戦を策案し、命を弾丸の代りにした日本軍は、特攻で四千人五百人もの若者を殺しました。特攻作戦発案者といわれる海軍軍令部次長大西瀧治郎は「二十万の日本人を殺す覚悟で、これを特攻として使えば決して負けない：日本国民が、なお二十万人ほど戦死するほどの一戦を試みよう」と言っていたそうです。

昭和十九年六月、一般国民を国民義勇戦闘隊へ編入し、男子十五歳から六十歳まで、女子十七歳から四十五歳まで義勇兵役に服し、戦闘となった場合に戦場に出て戦うことを法律で決めました。戦争が続いていたら、私は敵を殺し、私は殺されたことでしょう。

原爆は広島長崎の何十万の人の命を奪いました。ヒトラーはホロコーストで六百万人のユダヤ人を殺しました。戦場となった国々の犠牲者は数え切れない。その悲しみは何に例える事も出来ない。戦争とはこのようなものです。

安倍政権は歴史に学ばず、国民の声も聞かず、発する言葉は意味不明です。今年九月十九日「戦争の出来る国」へと舵を切りました。聴取不能の騒乱の中の「一国の運命」（地獄への道）を可決しました。政治家の生命である言葉には、現在と歴史とが生きていなければなりません。安倍政権にそれは無い。戦争法案可決、沖縄基地問題、原発再稼働や他国への売込み、武器輸出等々、正気の沙汰と思えません。

今、世界はISによるテロの発生に怯えています。遙か昔の十字軍の記憶が呼び覚まされていることを、もっと深く考えなくてはなりません。武力による解決は何もありません。恐ろしい事に、二〇一五年八月の世界は一六〇〇〇個位の原爆を保持しているそうです。

…人間はなにをしかねないか、われわれは自らの歴史から学ぶ…

とは、元ドイツ大統領の故ワイゼッカー氏の言葉です。夥しい犠牲を代償にして日本が得た唯一のもの、「平和憲法九条」を絶対に手放してはなりません。私達は近隣の国々とも仲良くし、世界に向けて「戦争はしない」と言い続けましょう。

**戦争に人間の未来はありません。**